

『菖蒲綱引き』ボランティア（6月2日）

赤尾谷地区で、菖蒲綱引きに参加した
青谷高生たち



子どもの息災祈り力強く

因幡の菖蒲綱引き 青谷高生が大活躍

国の重要無形民俗文化財に指定されている「因幡の菖蒲綱引き」が、鳥取市青谷町の伝承地区9カ所で行われた。人口減などで年々継続が難しくなる中、青谷高（小川勝校長）の生徒10人が3地区でボランティア参加し、地区民から喜ばれた。

菖蒲綱引きは、子どもの健やかな成長を願う県東部の伝承行事で、旧暦の端午の節句に合わせて毎年開かれている。

伝承地区の一つ、赤尾谷地区（18世帯）では、菖蒲綱保存会（前田孝行

会長）と地区公民館（坂口貴志館長）が中心となり実施。青谷高生6人が、地区民から綱の編み方の指導を受けながら約8分の立派な綱を編み上げた。地元の子ども会メンバーも束出しの手伝いを積極的に行った。

子どもたちと高校生は出来上がった綱を持ちながら、初節句を迎えた桐本彩央人ちゃんの家の前を皮切りに綱引きを行い、子どもたちの無病息災を祈った。

（青谷通信部・高橋克己部長）